

認可外保育施設（子育て交流サロン一時預かり）評価基準

（令和5年5月1日適用）

荒川区子ども家庭部子育て支援課指導監査係

評価基準について

○判定の内容

判定区分	評価区分	内容
B	口頭指導	指導基準に適合していないが、軽微な事項又は改善が容易な事項
C	文書指導	指導基準に適合していない事項で、B判定以外のもの

○指示の基準

B判定及びC判定は全て文書で指示する。

なお、B判定であっても児童の安全確保の観点から特に注意を促す事項及び前回指摘をしているにもかかわらず、改善意欲のみられない事項はC判定とする。

○認可外保育施設(子育て交流サロン一時預かり)評価基準

【5人以下】:1日に保育する乳幼児が5人以下の施設 【6人以上】:1日に保育する乳幼児の数が6人以上の施設

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
1 保育に従事する者の数及び資格	(1) 保育に従事する者の数 【6人以上】 0歳児 3人につき1人以上 1, 2歳児 6人につき1人以上 3歳児 20人につき1人以上 4, 5歳児 30人につき1人以上 [考え方] どの時間帯においても在籍児童数に見合った必要な保育従事者数が配置されていることが必要。	保育従事者の必要数の算出 a 調査日の属する月を基準月とし、一時預かりの児童数による必要保育士数を満たしているか。 b 常時、複数の保育従事者が配置されているか。 ※ 必要数の算出は年齢別に小数点1桁(小数点2桁以下は切り捨て)目までを算出し、その合計の端数(小数点1桁)を四捨五入する。	・ 一時預かり児童数に対して保育従事者が不足している。 ・ 入所児童の在籍時間帯に1人勤務の時間帯がある。		○
	【5人以下】 原則として施設内の開所時間について常時2人以上 ただし、保育士、看護師(保健師又は助産師を含む。)、家庭的保育研修修了者又は子育て支援員研修修了者である場合は、乳幼児の数が3人以下までは1人の配置可 [考え方] どの時間帯も必要な保育従事者数が配置されていることが必要	保育従事者の必要数の算出 常時、複数の保育従事者が配置されているか。 (保育士、看護師、家庭的保育研修修了者又は子育て支援員研修修了者が従事している時間帯であって乳幼児の数が3人以下の場合は除く。)	・ 入所児童の在籍時間帯に1人勤務の時間帯がある。		○
	(2) 保育に従事する者の有資格者の数 【6人以上】 [考え方] 有資格者は、保育士、看護師(保健師又は助産師を含む。)、家庭的保育研修修了者又は子育て支援員研修修了者の資格を有する者をいう。	有資格者が保育従事者の必要数の3分の1(保育従事者が2人の施設については1人)以上いるか。 ※ 有資格者の算出に当たっては、小数点1桁を四捨五入	・ 一時預かり児童数に対する保育従事者数について、有資格者が不足している。		○
	【5人以下】 [考え方] 有資格者は保育士、看護師(保健師又は助産師を含む。)、家庭的保育研修修了者又は子育て支援員研修修了者を「有資格者等」という。	有資格者等が1人以上配置されているか。	・ 有資格者等が1人もいない。		○
	(3) 保育士の名称	保育士でない者を保育士又は保母、保父等これに紛らわしい名称で使用していないか。	・ 左記の事項につき、違反がある。		○
2 保育室の面積等	(1) 保育室の面積等 【6人以上】 [考え方] 保育室面積:当該保育施設において、保育室専用として使用している部屋の面積。調理室や便所、浴室等、保育室以外の部屋及び区画は含まない。	保育室の面積は、児童が実際に使用できる面積(ロッカー等が置いてある場合は、その分の面積は除く)とし、調査日現在の一時預かり児童数についての1人当たりの面積がおおむね1.65㎡以上確保されているか。	・ 不足している。		○
	【5人以下】	乳幼児の保育を適切に行うことができる広さか。	・ 乳幼児の保育を適切に行うことができる広さ(9.9㎡以上)が確保されていない。		○

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
2 保育室の面積等	(2) 乳児(おおむね1歳児未満)と幼児の保育場所が区画されかつ安全性の確保 【6人以上のみ】	おおむね1歳児未満の保育を行う場所とその他の幼児の保育を行う場所は、別の場所であることが望ましいが、部屋を別にできない場合は幼児が容易に乳児の保育場所に立ち入れないように区画されているか。(ベビーフェンス、ベビーベッド等による区画でも可)	<ul style="list-style-type: none"> 区画されていない。(別の部屋でない、又はベビーフェンス、ベビーベッド等の区画がない。) 区画が不十分(ベビーフェンス等があっても、十分活用されていない。) 	○	○
	(3) 保育室の採光及び換気の確保、安全性の確保	a 採光が確保されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 窓等採光に有効な開口部がない。 ※ 建築基準法第28条第1項及び同法施行令第19条の規定(認可保育所の保育室の採光)に準じ、窓等採光に有効な開口部の面積が床面積の5分の1以上であることが望ましい。 採光が不十分 	○	○
		b 換気が確保されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 窓等換気有効な開口部がない。 ※ 建築基準法第28条第2項の規定(居室の換気)に準じ、窓等換気有効な開口部の面積が床面積の20分の1以上であるか、これに相当する換気設備があることが望ましい。 換気が不十分 	○	○
		c 乳幼児用ベッドの使用に当たっては、同一の乳幼児用ベッドに2人以上の乳幼児を寝かせていないか。	<ul style="list-style-type: none"> 同一の乳幼児用ベッドに2人以上の乳幼児を寝かせることがある。 		○
	(4) 便所 a 便所の有無	<p>便所は、原則として当該施設内にあって専用のものであるか。 施設外共同使用の場合は、通常の使用に特に支障がないと判断できるか。</p> <p>※ 特に支障がない場合 便所が同一階にあり、共同使用しても必要数を確保でき、衛生上問題ないこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 便所がない。 		○
	b 便所に専用の手洗い設備の設置 (便所と保育室及び調理室(調理設備を含む。)との区画 便所の安全な使用の確保)	(a) 【6人以上】 便所には保育室用とは別に便所専用の手洗い設備が設けられているとともに、衛生的に管理されているか。 【5人以下】 便所には専用の手洗い設備が設けられているとともに、衛生的に管理されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 専用の手洗い設備が設けられていない。 手洗い設備が設けられているが不適切 手洗い設備が不衛生(十分に清掃がなされていない、石けんがないなど) 	○	○
		(b) 児童が安全に使用するのに適当なものであるか。	<ul style="list-style-type: none"> 児童専用の便所がない。(便器のサイズ児童用) 		○
(c) 便所は保育を行う部屋及び調理設備が設けられている部屋と区画され衛生上問題がないか		<ul style="list-style-type: none"> 便所が、保育を行う部屋及び調理設備が設けられている部屋と区画されていない。 便所が不衛生(十分に清掃がなされていない。) 	○	○	

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準			
			評価事項	判定		
				B	C	
3 非常災害に対する措置	(1) a 消火用具の設置	(a) 機能が有効な消火用具が設置されているか。(消火スプレー可)	・ 消火用具がない又は消火用具の機能失効		○	
		(b) 設置場所は火気使用場所のそばであり、かつ通行又は避難並びに用具の性能に支障がないか。	・ 設置場所不適	○		
		(c) 職員全員が消火用具の設置場所及びその使用方法を知っているか。	・ 消火用具の設置場所等につき、周知されていない。	○		
	b 非常口の設置	(a) 非常口は、火災等非常時に利用児童の避難に有効な位置に、2か所2方向で適切に設置されているか。 ※ 2か所2方向に非常口があり、それぞれの非常口に通じる階段が必要になる。(出入りが2か所、階段も2か所必要であること。) 保育室等を1階に設ける場合や、屋上に屋外遊戯場を設ける場合等においても2方向の避難経路を確保すること。	・ 非常口が1か所のみ ・ 設置箇所不適 ・ 非常口は2か所あるが、適切な退避用経路が確保されていない。		○ ○ ○	
		(b) 非常口の周辺に家具や用具を置いて、設備の機能を妨げているか。	・ 非常口の機能不備	○		
	(2) a 非常災害時に対する具体的計画(消防計画等)の策定	【6人以上】 (a) 具体的計画(消防計画等)が適正に作成されているか。 ※ 消防法上、収容人数(防火対象物に出入し、勤務し、又は居住する者の数をいう。建物全体で判断する。)が30人以上の施設については、作成及び届出の義務がある。収容人数が30人未満の施設であっても、児童の安全確保の観点から、具体的計画(消防計画等)を作成すること。 ※ 消防計画の内容に変更の必要がある場合は、変更後の提出を行うものとする。	・ 具体的計画(消防計画等)を作成していない。(全施設対象) ・ 具体的計画(消防計画等)の届出をしていない。(収容人数が30人以上の施設が対象) ・ 具体的計画(消防計画等)の内容不備。		○ ○ ○	
			【5人以下】 災害の発生に備え、緊急時の対応の具体的内容及び手順、職員の役割分担等が記された計画(消防計画等)が作成されているか。	・ 具体的計画(消防計画等)を作成していない。 ・ 具体的計画(消防計画等)の内容不備	○	○
			【6人以上のみ】 (b) 防火管理者の選任、届出が行われているか。 ※ 認可外保育施設も消防法上の児童福祉施設とみなされるため、収容人数が30人以上の施設は、防火管理者の選任、届出を行わなければならない。 収容人数が30人未満の施設であっても児童の安全確保の観点から選任することが望ましい。	・ 収容人数が30人以上の施設であって、防火管理者の選任・届出がされていない。		○

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
3 非常災害に対する措置	b 避難消火等の訓練の毎月1回以上の実施	<p>訓練は毎月定期的に行われているか。</p> <p>※ 訓練内容は、消火活動、通報連絡及び避難誘導等の実地訓練を原則とする。</p> <p>※ 震災に対する訓練も取り入れることが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 訓練が1年以内に1回も実施されていない。 訓練が毎月1回以上実施されていない。(保育室が3階以下にある施設) (保育室が4階以上にある施設) 訓練内容不適 訓練記録が整備されていない 訓練記録が不十分 	○ ○ ○ ○ ○	○ ○
4 保育室を2階以上に設ける場合の条件	(1) 保育室が2階の場合の条件	<p>a 保育室、その他乳幼児が出入りし又は通行する場所に、乳幼児の転落事故を防止する設備を備えているか。</p> <p>b 耐火建築物若しくは準耐火建築物又は乳幼児の避難に適した構造の施設か。</p> <p>※ 保育室等の室内面の材質確認は、外観での判別が難しいので、建築図面等での確認が望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 転落防止設備がない。 転落防止設備が不備である。 建築基準法第2条第9号の2に規定する耐火建築物又は建築基準法第2条第9号の3に規定する準耐火建築物(同号ロに該当するものを除く。)ではない。 	○ ○	○ ○
		<p>c 乳幼児の避難に適した下記の構造の施設又は設備が、それぞれ1以上設けられているか。</p> <p>(常用) ア 屋内階段 イ 屋外階段 (避難用) ア 建築基準法施行令第123条第1項に規定する構造の屋内避難階段又は同条第3項に規定する構造の屋内特別避難階段 イ 待避上有効なバルコニー ウ 建築基準法第2条第7号の2に規定する準耐火構造の屋外傾斜路又はこれに準ずる設備 エ 屋外階段</p>	左記に掲げる(常用)及び(避難用)の施設又は設備がそれぞれ1以上設けられていない。		○
<p>待避上有効なバルコニーとは以下の要件を満たすものとする。</p> <p>① バルコニーの床は準耐火構造とする。</p> <p>② バルコニーは十分に外気に開放されていること。</p> <p>③ バルコニーの各部分から2m以内にある当該建築物の外壁は準耐火構造とし、その部分に開口部がある場合は建築基準法第2条第9号の2ロに規定する防火設備とすること。</p> <p>④ 屋内からバルコニーに通じる出入口の戸の幅は0.75m以上、高さは1.8m以上、下端の床面からの高さは0.15m以下とすること。</p> <p>⑤ その階の保育室の面積の概ね1/8以上の面積を有し、幅員3.5m以上の道路又は空地に面していること。</p> <p>なお、待避上有効なバルコニーは、建築基準法上の直通階段には該当しないため、建築基準法施行令第120条及び第121条に基づき、原則として保育室から50m以内に直通階段を設置しなければならない。</p>					

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
4 保育室を2階以上に設ける場合の条件	(2) 保育室が3階の場合の条件	a 耐火建築物であるか。	・ 建築基準法第2条第9号の2に規定する耐火建築物でない。(準耐火建築物は不可)		○
		b 乳幼児の避難に適した下記に掲げる(常用)及び(避難用)の施設又は設備がそれぞれ1以上設けられているか。 (常用) ア 建築基準法施行令第123条第1項に規定する構造の屋内避難階段又は同条第3項に規定する構造の屋内特別避難階段 イ 屋外階段 (避難用) ア 建築基準法施行令第123条第1項に規定する構造の屋内避難階段又は同条第3項に規定する構造の屋内特別避難階段 イ 建築基準法第2条第7号に規定する耐火構造の屋外傾斜路又はこれに準ずる設備 ウ 屋外階段	・ 左記に掲げる(常用)及び(避難用)の施設又は設備がそれぞれ1以上設けられていない。		○
		c 避難に適した構造の施設又は設備が保育室の各部分からその一に至る歩行距離が30m以内となるように設けられているか。	・ 避難に適した構造の施設又は設備が、保育室の各部分からその一に至る歩行距離の30m以内に設けられていない。		○
		d 保育施設の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを不燃材料でしているか。	・ 左記dを満たしていない		○
		e 保育室その他乳幼児が出入りし、又は通行する場所に、乳幼児の転落事故を防止する設備が設けられているか。	・ 転落防止設備がない。 ・ 転落防止設備が活用されていない等運用面で注意を要する事項がある。	○	○
		f 非常警報器具又は非常警報設備及び消防機関への通報設備(電話で可)があるか。 ※ 非常警報器具;警鐘、携帯用拡声器、手動式サイレン等のこと。 ※ 非常警報設備;非常ベル、自動式サイレン、放送設備等のこと。	・ 左記fを満たしていない。		○
		g カーテン、敷物、建具等で可燃性のものについて防火処理されているか。	・ 左記gを満たしていない。(防火物品表示)		○

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
5 保育内容	(1) 保育の内容 ※ 保育所保育指針を踏まえた、適切な保育が行われているか。	保育内容の工夫 a 乳幼児一人一人の心身の発育や発達の状態を把握し、保育内容を工夫しているか。	・ 左記b～dの事項を満たしていること。(実際の指導等は、b～dの事項について、それぞれ実施する。)		
		b 乳幼児が安全で清潔な環境の中で、遊び、運動、睡眠等をバランスよく組み合わせた健康的な生活リズムが保たれるように、十分に配慮がなされているか。 (a) 必要に応じ入所乳幼児に入浴又は清拭をし、身体の清潔が保たれているか。 (b) 遊び、運動、睡眠等に配慮しているか。	・ 一時預かりの記録が作成されていない。 ・ 汚れたときの処置が不適当	○	○
		c 漫然と乳幼児にテレビを見せ続けるなど、乳幼児への関わりが少ない「放任的」な保育になっていないか。	・ テレビやビデオを見せ続けている。 ・ 一人一人の児童に対してきめ細かくかつ相互応答的に関わっていない。	○	○
		d 必要な遊具、保育用品等が備えられているか。 ※ テレビは含まない。	・ 遊具が全くない。 ・ 遊具につき、改善を要する点がある。年齢に応じた玩具が備えられていない、衛生面に問題がある等 ・ 大型遊具を備える場合に、安全性に問題がある。	○	○
(2) 保育従事者の保育姿勢等 a 保育従事者の人間性と専門性の向上	(a) 乳幼児の最善の利益を考慮し、保育サービスを実施する者として、適切な姿勢であること。特に、施設の運営管理の任に当たる施設長については、その職責にかんがみ、資質の向上、適格性の確保が求められること。 (b) 保育所保育指針を理解する機会を設けるなど、保育従事者の人間性と専門性の向上を図るよう努めているか。	・ 施設内研修等の機会を設けるなど、保育従事者の質の向上に努めていない。 ・ 外部研修等への参加が全くない。 ・ 保育所保育指針の理解に努めていない。	○	○	
b 児童の人権に対する十分な配慮	乳幼児に身体的苦痛を与えることや、人格を辱めることがないよう、乳幼児の人権に十分配慮がなされているか。	配慮に欠けている。 (例) しつこく称するか否かを問わず乳幼児に身体的苦痛を与えている。 いわゆるネグレクトや差別的処遇、言葉の暴力が見られる。		○	
c 児童相談所等の専門的機関との連携	利用乳幼児について、虐待等不適切な養育が疑われる場合に、児童相談所等の専門的機関と連携する等の体制がとられているか。 ※ 虐待が疑われる場合だけでなく、心身の発達に遅れが見られる場合、社会的援助が必要な家庭状況である場合等においても、専門的機関に対し適切な連絡に努めること。	・ 不適切な養育が疑われる場合に専門的機関への通告等が行われていない。 ・ 対応が不十分	○	○	

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
5 保育内容	(3) 保護者との連絡等 a 保護者との密接な連絡を取り、その意向を考慮した保育の実施	連絡事項のうち重要な事項は、記録されているか。 ※ 保護者との連絡と同時に、保育者間の連絡事項も記録し確実に引き継ぐこと。	・ 連絡が行われていない。 ・ 連絡状況が不十分	○	○
	b 保護者との緊急時の連絡体制	緊急時に保護者へ早急に連絡できるよう緊急連絡表が整備され、全ての保育従事者が容易にわかるようにされているか。 ※ 消防署、病院等の連絡先一覧表等も併せて整備すること。	・ 緊急連絡表が整備されていない。		○
	c 保育室の見学	保護者や利用希望者等から乳幼児の保育の様子や施設の状況を確認する要望があった場合には、乳幼児の安全確保等に配慮しつつ、保育室などの見学が行えるよう適切に対応しているか。	・ 保護者等からの要望があった場合に、乳幼児の安全確保、保育の実施等に支障のない範囲であっても、これらの要望に適切に対応していない。	○	
6 給食	(1) 衛生管理の状況 配膳、食器等の適切な衛生管理	a 食器類やふきんは十分に殺菌したものを使用しているか。 また、哺乳ピンは使用することによく洗い、滅菌しているか。	・ 使用することによく洗っていない。十分な殺菌又は滅菌が行われていない。		○
		b 配膳が衛生的であるか。	・ 衛生的配慮が不十分	○	
		c 食事時、食器類や哺乳ピンは、児童や保育従事者の間で共用されていないか。	・ 共用されることがある。	○	
	(2) 食事内容等の状況 乳幼児の年齢や発達、健康状態(アレルギー疾患等を含む。)等に配慮した食事内容	乳児にミルクを与えた場合は、ゲップをさせるなどの授乳後の処置が行われているか。 また、離乳食摂取後の乳児についても食事後の状況に注意が払われているか。	・ 乳児に対する配慮が適切に行われていない。		○
7 健康管理・安全確保	(1) 乳幼児の健康状態の観察 登園、降園の際、乳幼児一人一人の健康状態の観察	a 登園の際、健康状態の観察を行い、保護者から乳幼児の状態の報告を受けているか。 ※ 体温、排便、食事、睡眠、表情、皮膚の異常の有無、機嫌等	・ 十分な観察が行われていない。 ・ 保護者から報告(連絡帳を活用することを含む。)を受けてない。	○	○
		b 降園の際、登園時と同様の健康状態の観察が行われているか。 保護者へ乳幼児の状態を報告しているか。	・ 十分な観察が行われていない。 ・ 注意が必要である場合において保護者等にその旨を報告していない。		○ ○
	(2) 緊急時への備え	かかりつけ医の確認や、緊急時に備えた保育施設付近の病院関係の一覧を作成し、全ての保育従事者への周知が行われているか。	・ 緊急時に備えた保育施設付近の病院関係の一覧が作成されていない。 ・ 職員への周知状況の不徹底等対応が不十分	○	○
	(3) 職員の健康診断	a 労働安全衛生規則に基づく職員の健康診断を採用時及び1年に1回実施しているか。	・ 実施されていない。 ・ 実施されているが未実施者がいる。		○ ○
		b 調理、調乳に携わる職員には、月1回検便を実施しているか。	・ 実施されていない。 ・ 月1回の検便が実施されている状況にない。		○ ○

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
7 健康管理・安全確保	(4) 医薬品等の整備	必要な医薬品その他の医療品が備えられているか。 ※ 最低必要なもの:体温計、水まくら、消毒薬、絆創膏類	・ 左記の最低必要な医薬品、医療品がない。 ・ 整備内容が不十分	○	○
	(5) 感染症への対応	a 感染症にかかっていることがわかった乳幼児及び感染症の疑いがある乳幼児については、かかりつけ医の指示に従うよう保護者に指示しているか。	・ 対応が適切ではない。		○
		b コップ、タオル、ハンカチなどは、共用されていないか。	・ 共用されることがある。	○	
	(6) 乳幼児突然死症候群に対する注意	a 睡眠中の乳幼児の顔色や呼吸の状態をきめ細かく観察しているか。	・ 保育室に職員が在室していないなど、乳幼児突然死症候群に対する注意を払っていない。		○
		b 乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせているか。 ※ 仰向け寝は、乳幼児突然死症候群のほか、窒息の防止の観点から有効であるが、医学上の理由から医師がうつぶせ寝を勧める場合もあるため、うつぶせ寝を行う場合は入所(利用開始)時に保護者に確認するなど、乳幼児突然死症候群に対する注意に努めること。	・ 乳幼児突然死症候群に対する注意が不足している。		○
		c 保育室では禁煙を厳守しているか。	・ 保育室内で喫煙している。		○
	(7) 安全確保	a 施設の設備の安全点検、職員、児童等に対する施設外での活動、取組等を含めた施設での生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修及び訓練その他施設における安全に関する事項についての計画(以下、「安全計画」という。)を策定し、当該安全計画に従い、乳幼児の安全の確保に配慮した保育が実施されているか。	・ 安全計画が策定されていない。 ・ 保育室その他乳幼児の出入りする場所には危険物防止に対する十分な配慮がされていない(危険物が置かれている、書庫等が固定されていない、落下物がある、コンセント類が危険など)。	○	○
		b 職員に対し、安全計画について周知されているとともに、安全計画に定める研修及び訓練が定期的の実施されているか。	・ 職員に対し、安全計画について周知されていない。 ・ 安全計画に定める研修及び訓練が定期的の実施されていない。		○
		c 保護者に対し、安全計画に基づく取組の内容等について周知されているか。	・ 保護者に対し、安全計画に基づく取組の内容等について周知されていない。		○
		d 事故防止の観点から、その施設内の危険な場所、設備等に対して適切な安全管理を図っているか。	・ 施設内の危険な場所、設備等への囲障の設置がない。		○
e 窒息の可能性のある玩具、小物等が不用意に保育環境下に置かれていないかなどについて、保育室内及び園庭内の点検を定期的の実施しているか。		・ 定期的な点検が行われていない。		○	

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
7 健康管理・安全確保	(7) 安全確保	f 不審者の立入防止などの対策や、緊急時における乳幼児の安全を確保する体制を整備しているか。	・ 困障はあるが、施設等が不十分	○	
		g 事故発生時に適切な救命処置が可能となるよう、消防署等が実施する救命講習を受講し、緊急通報訓練(119番通報等の訓練)を定期的に行っているか。	・ 救命講習を過去3年以内に受講した保育従事者がいない。 ・ 関係機関への緊急通報訓練が1年以内に1回も実施されていない。		○
		h 賠償責任保険に加入するなど、保育中の万が一の事故に備えているか。	・ 賠償すべき事故が発生した場合に、損害賠償を速やかに行うことができるよう備えられていない。		○
		i 事故発生時には速やかに当該事実を区に報告しているか。 ※ 死亡事案、重傷事故事案、食中毒等重大な事故が生じた場合、昭和57年6月15日付57福児母第144号「認可外保育施設に対する指導監督要綱実施細目」第4条第2項により報告を行うこと。	・ 報告が行われていない。		○
		j 事故の状況及び事故に際して採った処置について記録しているか。	・ 事故が発生した施設において、当該事故の状況及び当該事故に際して採った処置について記録していない。		○
		k 死亡事故等の重大事故が発生した施設については、当該事故と同様の事故の再発防止策及び事故後の検証結果を踏まえた措置をとっているか。	・ 死亡事故等の重大事故が発生した施設において、当該事故と同様の事故の再発防止策及び事故後の検証結果を踏まえた措置がとられていない。		○
8 利用者への情報提供	(1) 施設及びサービスに関する内容の掲示	以下の事項について、施設のサービスを利用しようとする者が見やすい場所に、施設に関する掲示がされているか。 a 設置者の氏名又は名称及び施設の管理者の氏名 b 建物、その他の設備の規模及び構造 c 施設の名称及び所在地 d 事業を開始した年月日 e 開所している時間 f 提供するサービスの内容及び当該サービスの提供につき利用者が支払うべき額に関する事項並びにこれらの事項に変更が生じたことがある場合にあっては当該変更のうち直近のもの内容及び理由 g 利用定員 h 保育士その他の職員の配置数又はその予定 i 保育する乳幼児に関して契約している保険の種類、保険事故及び保険金額 j 提携している医療機関の名称、所在地及び提携内容 k 緊急時等における対応方法 l 非常災害対策 m 虐待の防止のための措置に関する事項 n 設置者が過去に事業停止命令又は施設閉鎖命令を受けたか否かの別(受けたことがある場合には、その命令の内容を含む。)	・ 全く掲示されていない。 ・ 左記a～nの事項につき、掲示内容又は掲示の仕方が不十分	○	○

指導基準	調査事項	調査内容	評価基準		
			評価事項	判定	
				B	C
8 利用者への情報提供	(2) サービスの利用予定者から申し込みがあった場合の契約内容等の説明	当該サービスを利用するための契約の内容及びその履行に関する事項について、適切に説明が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 適切な説明が行われていない。 説明はされているが、内容が不十分 	○	○
	(3) サービス利用者に対する契約内容の書面等による交付	以下の事項について、利用者へ書面等による交付がされているか。 a 設置者の氏名及び住所又は名称及び所在地 b 当該サービス提供につき利用者が支払うべき額に関する事項 c 施設の名称及び所在地 d 施設の管理者の氏名及び住所 e 当該利用者に対し提供するサービスの内容 f 保育する乳幼児に関して契約している保険の種類、保険事故及び保険金額 g 提携する医療機関の名称、所在地及び提携内容 h 利用者からの苦情を受け付ける担当職員の氏名及び連絡先	<ul style="list-style-type: none"> 書面等により交付されていない。 左記a～hの事項につき交付内容が不十分 	○	○
9 備える帳簿	(1) 職員に関する書類等の整備	a 職員の氏名、連絡先、職員の資格を証明する書類(写)、履歴、採用年月日等が確認できる書類があるか。 b 各職員の勤務の時間毎の割り振り(シフト、ローテーション)が確認できる書類及び勤務実績が確認できる書類(出勤簿等)があるか。	<ul style="list-style-type: none"> 確認できる書類が備えられていない。 整備内容が不十分 	○	○
		c 労働基準法その他の法令に基づき、事業場ごとに備え付けが義務づけられている帳簿等があるか。 ・労働者名簿(労働基準法第107条) ・賃金台帳(労働基準法第108条) ・雇入、解雇、災害補償、賃金その他労働関係に関する重要な書類(※)の保存義務(労働基準法第109条) (※)出勤簿、タイムカード、労使協定、残業命令書およびその報告書等	<ul style="list-style-type: none"> 左記の帳簿の整備状況が不十分 		○
	(2) 在籍(利用)乳幼児に関する書類	在籍(利用)乳幼児及び保護者の氏名、乳幼児の生年月日及び健康状態、保護者の連絡先、乳幼児の在籍(利用)記録並びに契約内容等が確認できる書類(※)があるか。 ※ 利用契約書、児童票、登園・降園の記録、出席簿等	<ul style="list-style-type: none"> 確認できる書類が備えられていない。 整備内容が不十分 	○	○
	(3) 施設に関する書類	面積が確認できる施設の平面図があるか。	<ul style="list-style-type: none"> 確認できる書類が備えられていない。 内容が不十分 	○	○
10 設置者の経営姿勢	(1) 保育に対する姿勢 入所する児童の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい保育を行うための適切な経営姿勢であること。	保育従事者の確保や保育内容等に対して、利益を優先させていないか。 保育の充実のために、関係法令及び基準を遵守し実行する、真に積極的な姿勢であるか。 保育サービスを実施する責任者として適切な対応を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 保育を行う者として不適切な経営姿勢である。 保育に対する姿勢が不十分 	○	○